

をはりだのあそみひろみ  
小治田朝臣広耳の歌一首

一五〇一番

ほととぎす 鳴く峰の上の 卯の花の 憂きこと  
あれや 君が来まさぬ

おほどものさかのうへのいちつめ  
大伴坂上郎女の歌一首

一五〇二番

五月の花橘を 君がため 玉にこそ貫け 散  
らまく惜しみを

きのあそみとよかは  
紀朝臣豊河の歌一首

一五〇三番

我妹子が 家の垣内の さ百合花 ゆりと言へる  
は 否と言ふに似る